

(様式 1)

大阪市立 (堀江小学校) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校における最大の課題は、児童数急増による狭隘化等の過大規模校問題である。令和4年度は、児童数が約 1410 人、51 学級(特別支援学級 12 含む)になる。

運動や健康・体力づくりをはじめとして、教育活動の様々な面で、例えば、運動場・図書室やプールは全学級が利用できない状況にあるなど、物理的・時間的・空間的にも支障が出ている。今後も児童数は増加を続け、予測では令和6年度にピークを迎え分割化することが決まっている。

前述以外にも過大規模校特有の課題が多く、長時間労働の問題とリンクしている。体力・運動能力については、児童 1 人当たりの運動場の面積は市でも最低レベルにある。さらに平成 31 年 4 月からのⅡ期工事・校舎建設により、運動場の半分が使えない状態が令和3年 10 月まで続いている。

【安全・安心な教育の推進】について

①本校が認知した“いじめ”的件数とその解消について

いじめの認知件数とその解決については、いじめ対策委員会の設置や学期ごとのいじめ調査の対応など組織的に取り組み、令和3年度に認知した案件については、全て解消できている。

本校では、特に、いじめの未然防止に重点をおき、いじめを許さない意識や、認め合う仲間づくりなど心の教育を推し進めてきた。さらに、Q-U 調査を取り入れて各学級の人間関係についても分析、観察を行っている。

②学校のきまり・規則を守っている児童について

校内調査(全学年)で「学校のきまりや規則を守っている」と回答した児童の割合は、これまで9割以上を保っている。しかし、児童の意識と実際の行動には乖離が見られ、廊下を走る児童や遊びのルールが守ることができない児童等も一定数おり、継続指導が必要である。また、きまりが広範囲にわたり細分化されているために、個別に配慮が必要な場合との境界が曖昧になり、指導が難しくなっている。

③不登校児童について

本校の不登校児童は、令和3年度には 13 人おり、割合では 0.9% となる。不登校対応にあたっては、組織的な対応に努めてきた。SSW やカウンセラー・こども相談センターとの連携など、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応に努めている。

④危機回避能力について(学校独自の目標)

セーフティープロモーション(SPS)認証校として、安全を守るための力の育成をめざして、保護者、地域と連携して防災教育に重点的に取り組んでいる。校内調査(4段階評定尺度)で、「学校や家庭・地域などで、地震や火災などの非常災害が起こったとき、どう行動したらよいか分かる」と答えた児童は 97%、「安全を確認して道路を通行する習慣が身についている」と答えた児童は 96% にのぼり、意識のうえでは高いが、実際に安全を守るための力を一層高める必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】について

①学力について

(全国学力・学習状況調査)

令和4年度は、国語科・算数科とも全国平均より高く、理科はほぼ全国平均と同等であるが、学習内容が定着しているとはいえない児童が2～3割いる。

(学力経年調査)

令和4年度は小6の社会科・算数科・理科で、また5年生の理科で大阪市平均をやや下回ったが、それ以外は全ての学年・教科において大阪市平均を上回った。また、4教科とも、前述の学力調査や校内のテストでも、当該学年及びそれまでの学年の学習内容が定着していない児童がいずれの学年でも2～3割いる傾向がある。

令和4年度の学力経年調査の児童質問紙において「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」において、最も肯定的な「思う」と回答する児童は、3年 51.4%、4年 38.8%、5年 37.6%、6年 38.7%であり、学年でばらつきはみられるが、ほぼ半数以下となっている。

②「体力」について

全国体力・運動能力について、令和4年度の5年生では、男女とも、総合得点では全国平均を下回り、男女とも特にシャトルランが全国平均を大きく下回る結果となった。児童数激増による運動スペースの確保や、臨時休業等で児童が戸外で体を動かす機会が減った事による影響も大きい。そのため、狭隘化する限られたスペースで体力・運動能力を伸ばす指導を工夫する必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】について

①ICT 活用について

令和4年度の校内アンケートにおいて、パソコンやタブレット、電子黒板などを使った学習が「楽しい」「わかりやすい」「もっとしたい」と回答した児童の割合が約90%となっている。児童の高い意識を維持しつつ、「一人一台端末」の有効活用について、さらに工夫する必要がある。

②教職員の働き方改革について

本校の教職員において、時間外勤務が長時間になることが常態化している一面もある。「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1では、時間外勤務の上限を「月 45 時間」「年間 360 時間」としており、本校では週に1回ゆとりの日を設定するなど、時間を意識した働き方改革を推進していく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和7年度末まで90%以上で維持する。
- ・校内アンケートにおける「学校のきまりや約束を守っている」に対して、最も肯定的な「あてはまる」を回答する児童の割合を令和7年度末までに70%以上にする。
- ・校内アンケートにおける「自分にはよいところがある」に対して、肯定的な「あて

はまる（どちらかといえばあてはまる）」を回答する児童の割合を令和7年度末までに90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和7年度末までに全学年で50%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、令和7年度末までいずれの学年も前年度を維持か向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和7年度末までにどの学年も80%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和7年度末までに70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和7年度末までに70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・校内アンケートにおける「パソコンやタブレット、電子黒板などを使った学習」が「たのしい」「わかりやすい」「もっとしたい」と肯定的な回答をする児童の割合を令和7年度末まで90%以上で維持する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上で維持する。（令和6年度：79.6%）
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
※改善とは、次の3つの状態をいう。
 1. 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）
 2. ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 3. 養護教諭やスクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

- ・年度末の本校アンケート調査で「災害安全」「交通安全」「生活安全」に関わる項目について、「思う（だいたい思う）」と回答する児童の割合を90%以上で維持する。
(令和6年度：災害安全97%・交通安全96%・生活安全96%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。(令和6年度：43.3%)
- ・小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を維持か向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和6年度：82.0%)
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(令和6年度：76.0%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。(令和6年度：70.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1～3 に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の 3 つの状態をいう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席日数の増(学校内外で ICT 等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む) 2. ICT の活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。 3. 養護教諭やスクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。 	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の本校アンケート調査で「災害安全」「交通安全」「生活安全」に関する項目について、「思う(だいたい思う)」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめの未然防止、早期発見・早期対応を基本にする。本校の「いじめ防止基本方針」に則り、全学級・全学年で、認め合い信頼関係のある集団を育成するため、学級指導や係活動などを意図的・計画的・継続的に行う。Q-U 調査を実施し、その結果を分析し学級の人間関係の改善に取り組む。</p> <p>問題等が生じた際には、即応体制をとり教職員全体で共通理解し、解消に向けて組織的に取り組む。児童の欠席状況を把握し、週 3 日以上休む児童は、家庭訪問等を行う。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ調査を年 3 回実施し、結果の集計と対応を記録する。Q-U 調査を年 2 回実施し、分析結果に応じた対応を行う。欠席調べを毎月作成し、継続的な対応を行う。 	

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

学校のきまりについて教職員で共通理解し、児童の実態に基づいて、生活目標を設定し、学級・学校全体の場で指導する。日常的な指導に加えて強調週間を設けて指導する。

生活目標は、生活指導部において月単位で設定する。生活指導部会で、児童の実態を共通理解し、全校で共有しながら指導に活かす。

指標 ・「登校時刻を守ろう週間」や「廊下を正しく歩こう週間」などの生活指導に関する強調週間を学期に1回以上設け、児童が自身の生活を振り返り、向上をめざすことができるような取組を行う。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】

市防災モデル校及び SPS で防災教育・交通安全教育を継続するとともに、生活安全教育に重点をおいて取り組み、P D C Aに沿って改善する。

指標 ・SPS 認証校として、学期毎に2回の避難訓練を実施する。

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

道徳の時間を要として、教育活動全体を通して道徳教育に取り組む。人権教材を含めた年間指導計画と「道徳教育全体計画別葉」を作成し、実践を通して評価・改善する。

児童の自己肯定感を高めるため、授業の中で賞賛したり、友だちから認められる場を設けたりするとともに、児童自らが考え、主体的判断できる場面を教育活動全体で積極的に取り入れる。

指標 ・道徳の交換授業を各学期に1回以上行ったり、高学年では教科担任制を取り入れたりして、複数の教員の目で児童の育ちを見取り、指導に活かす。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

【取組内容②】

【取組内容③】

【取組内容④】

次年度への改善点

【取組内容①】

【取組内容②】

【取組内容③】

【取組内容④】

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語科および算数科の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度を維持か向上させる。 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童一人一人の状況に応じて学力を向上させるために、アナログとデジタルを組み合わせながら効果的な学習活動を展開する。</p> <p>[基礎基本の重視] 朝の学習時に、読書タイムや視写タイム、計算タイム等を位置づけ、基礎基本的な言語能力や計算能力を高める。</p> <p>[論理的な思考力の育成] ロボットや ICT を活用したプログラミング教育に取り組む。</p> <p>[主体的な学習の展開] 児童の主体性を育むために「個別最適な学び」「協働的な学び」な授業を展開し、授業の中で「自分の意見」や「学習の振り返り」などをノートやワークシート等に書く活動を取り入れる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム・視写タイム・計算タイムのいずれかを毎週 1 回以上行う。 ・全学年で年 1 回、プログラミング授業を行う。 ・学期に 1 回、「個別最適な学び」「協働的な学び」な学習をする。 <p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>全学年で「個別最適な学び」「協働的な学び」へ向けて ICT を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」の成立をめざした授業研究を実施する。また、教員の実践的な研究を通して授業力の向上に取り組む。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回、全学年で児童の主体性の伸長を目的とした公開授業を行う。 	

- ・全教員が年1回は授業力の向上に関わる公開授業を行う。

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

理科の学習を充実させるため、学習場面において観察・実験する場面を設定するとともに、問題に対する予想を考える場面や観察・実験結果から考察を導き出す場面を設定することを通して、問題解決能力の育成を図る。

指標

- ・各単元の理科授業において、観察・実験する場面を1回以上設定する。
- ・各単元の理科授業において、観察・実験結果から考察を導き出す場面を1回以上設定する。

取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

低学年からの外国語教育を充実させるため、毎週「Global Time」を設けて、チャンツ等の簡単な英語のコミュニケーションゲーム、絵本の読み聞かせなどを行うとともに、外国人との交流など外国語に慣れ親しむ環境を充実させることにより、外国語を学ぶことへの関心・意欲を高めるとともに、外国語活動の授業力向上に努める。また、児童に英語検定も勧める。

指標

- ・全学年で毎週2回の「Global Time」を行う。
- ・外国の文化に触れる活動や学習を学期に1回以上行う。

取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】

運動量確保のため、指導や場所の工夫、運動器具の整備充実を図ると共に、各学年で学級裁量等の時間を利用して運動する。

シナプソロジーに取り組み、児童の運動調整能力を高めるとともに、体育科における授業力の向上をめざす。

指標

- ・年間、または学期を通して1つ以上継続的な運動に取り組む。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

【取組内容②】

【取組内容③】

【取組内容④】

【取組内容⑤】

次年度への改善点

【取組内容①】

【取組内容②】

【取組内容③】

【取組内容④】

【取組内容⑤】

(様式 2)

大阪市立 (学校園名) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICT の活用に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50% 以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 <p>【教職員の働き方改革に関する目標を設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 60% 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容・取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>1 人 1 台端末を効果的に授業で活用するとともに、反転学習等で持ち帰り家庭学習でも利用する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年で、1 日 1 回以上、学習者用端末を活用する。 高学年で学期に 1 回以上、その他の学年で年 1 回以上、端末の持ち帰り学習を実施する。全学年で ICT を活用した公開授業を行う。 校内アンケートにおける「パソコンやタブレット、電子黒板などを使った学習」が「たのしい」「わかりやすい」「もっとしたい」と肯定的な回答をする児童の割合を 90% 以上で維持する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校の教育水準の維持・発展を図りながら、働き方改革に取り組み、長時間勤務を削減する。そのため、教育活動において、選択と集中の観点から教育活動を見直すとともに、物理的・時間的・人的に不利な過大規模校の課題を、スクールサポーターの活用など「チーム学校」の取組を進めることで克服する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁忙期を除き、毎週水曜日をノー残業デーに設定し、18 時までに退勤する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【取組内容①】
【取組内容②】
次年度への改善点
【取組内容①】
【取組内容②】